

平成30年度 広島平和記念式典派遣事業

平和大使 活動報告書



燕市教育委員会

「非核平和都市宣言」（平成18年12月25日）

美しい自然を愛し平和を願う心は人類共通のものです。

これを根底から揺るがし、地球環境と人類の平和を脅かす核兵器は絶対に容認できません。

世界でただ一つ悲惨な体験をした被爆国の国民として、核兵器の廃絶と非核三原則をいま一度世界に向け強く訴えていかなければなりません。

人と自然と産業が調和しながら進化するまちづくりをめざしている燕市は、新市誕生を機として、決意を新たに世界の恒久平和を願い、ここに「非核平和都市」を宣言します。

燕 市

目 次

I	広島平和記念式典派遣事業実施にあたって・・・・・・・・・・	1 ^{ページ}
II	ごあいさつ・・・・・・・・・・	2 ^{ページ}
III	広島平和記念式典派遣事業日程・・・・・・・・・・	3 ^{ページ}
IV	研修レポート・・・・・・・・・・	4 ^{ページ}
	① 出発式 平和大使決意表明	
	② 平和大使レポート	
	燕中学校 岩下 未歩	
	小池中学校 星野 司	
	燕北中学校 高橋 日和	
	吉田中学校 海津 柚衣	
	分水中学校 佐藤 光希	
	③ 平和への誓い in 燕	
	④ 引率者レポート	
	学校教育課 指導主事 関矢 洋	
	学校教育課 指導係 主任 川本 朋香	
V	派遣事業の概要・・・・・・・・・・	27 ^{ページ}
VI	広島平和記念式典派遣事業の様子・・・・・・・・・・	29 ^{ページ}

広島平和記念式典派遣事業実施にあたって

燕市長 鈴木 力

広島・長崎の被爆の悲劇から、今年で73年が経ちました。戦争を知らない世代も増え、悲惨な記憶を風化させることのないようにしなければなりません。私たちは、今日、享受することのできる平和と繁栄が、戦争による尊い犠牲の上に築かれているということを、世界でただ一つの被爆国の国民としてしっかりと理解し、後世に永遠に語り継いでいくことを大切にしなければなりません。

世界に目を向けてみますと、地域紛争や戦争、あるいはテロ行為によって、今もなお多くの人々の尊い命が失われています。

燕市は、核兵器のない真の世界恒久平和が実現することを願い、平成18年12月25日に「非核平和都市」を宣言しました。そして、平成20年度から広島平和記念式典へ燕市内中学校5校の代表生徒の派遣を始め、今年で11年目を迎えました。

生徒たちは、平和大使として、各学校で制作した千羽鶴の奉納、広島平和記念資料館・原爆ドームなどの見学、被爆体験講話の聴取、とうろく流しなどを体験してきました。そして、8月25日の報告会では、生徒たちが、直接目と耳で学び、肌で感じてきたこと、そして一人一人が考えた「平和を守るためにできること」を市民の方々へ発表してくれました。

戦争の体験を語れる方が減ってきている中で、直接話を伺い、資料などを目にしてきたことはとても貴重な体験だったと思います。平和大使たちには、これからも、体験し感じたことを学校、家庭、地域、そして世界へ向けて発信するとともに、平和の大切さ、命の尊さについて考える機会をさらに広げ、自らできること考え、積極的に行動してほしいと思います。まずは、相手の気持ちを思いやること、人の痛みを理解することが、その第一歩だと思います。今後の平和大使の活躍に期待しています。

終わりに、今回の事業実施にあたり多くの方々からご協力を賜わりましたことに、心から御礼を申し上げます。

ごあいさつ

燕市教育委員会教育長 仲野 孝

燕市では、非核平和の推進と平和学習活動の一環として、平成20年度から毎年、市内の5つの中学校から生徒を平和大使として広島へ派遣しています。

平和大使たちは、広島平和記念式典へ出席するとともに、各学校の生徒が戦争の犠牲となられた方々の冥福をお祈りしながら、平和への願いを込めて作った千羽鶴を「原爆の子の像」に捧げてきました。

広島の前爆投下について、私たちは学校で学び、テレビや新聞などで亡くなられた方の数や当時の惨状などを知っています。また、実際に広島市を訪ね、そこで触れる人・もの・ことのぬくもりや広島平和記念式典の空気は、教科書や新聞などの文字や写真だけでは伝わらないことも、私たちに教えてくれます。

今回、平和大使として広島へ派遣された5人は、五感を働かせ、現地を訪ねたからこそ分かること、感じられることなどたくさん吸収してきました。そして、さまざまな体験をとおして、戦争や平和について考え、「私たちが夢をもてるのは今が平和だから」と考え、その平和を守っていくために、できることから行動し、未来をつくろうという思いが、この報告書を読んでいただければ伝わるものと思います。

終戦から73年が経ち、その歴史を私たちに伝えてくれる語り部の方も年々少なくなってきました。今回、平和大使として貴重な体験をしてきた5名の皆さんは、戦争や核兵器の使用という過ちを二度と繰り返さぬよう、今回学んだこと、感じたこと、そして平和の尊さを未来の世代にしっかりと伝承していったほしいと願っています。

最後になりますが、平和大使のみなさんを快く送り出してくださった保護者の方々、ご支援・ご協力いただいた方々に感謝を申し上げ、あいさついたします。

平成30年度 広島平和記念式典派遣事業 日程

事前研修 7月10日(火) 18:30 ~ 20:00

- ◇ 参加者・引率者自己紹介
- ◇ 「広島平和記念式典」派遣事業について
 - ・事業概要説明(目的・活動内容等)
 - ・当日までの準備



1日目 8月5日(日)

- ◇ 出発式(燕市役所) 6:50 ~ 7:10
- ◇ 移動(燕三条~広島) 8:01 ~ 14:26
- ◇ 被爆体験講話(広島市青少年センター) 15:30 ~ 16:45
- ◇ 平和記念公園 17:00 ~ 19:30
 - ・千羽鶴奉納(原爆の子の像)
 - ・広島平和記念資料館見学
- ◇ ホテルにてミーティング 21:00 ~ 21:15



2日目 8月6日(月)

- ◇ 広島平和記念式典参加 8:00 ~ 8:45
 - ・原爆死没者名簿奉納
 - ・献花、黙とう
 - ・平和宣言(広島市長)
 - ・平和への誓い(子ども代表)
 - ・来賓あいさつ
 - ・平和の歌(合唱)
- ◇ 広島平和記念公園 9:40 ~ 10:40
 - ・ボランティアガイドによる公園内見学
- ◇ ヒロシマの心を世界に2018見学 10:50 ~ 15:00
- ◇ 広島原爆死没者追悼平和祈念館見学 15:20 ~ 16:30
 - ・被爆体験記朗読会参加
- ◇ おりづるタワー見学 17:00 ~ 18:30
- ◇ とうろう流し参加 19:10 ~ 20:00
- ◇ ホテルにてミーティング 20:40 ~ 20:55



3日目 8月7日(火)

- ◇ 広島市散策 9:00 ~ 11:00
- ◇ 移動(広島~燕三条) 12:03 ~ 18:35
- ◇ 解散(燕三条駅) 18:45



報告会 8月25日(土)

- 市長あいさつ 10:00 ~ 11:00
- 活動報告
- 平和大使「学び」の報告
- 教育長から平和大使へねぎらいの言葉



研修レポート

① 出発式 平和大使決意表明

② 平和大使レポート

燕中学校 岩下 未歩

小池中学校 星野 司

燕北中学校 高橋 日和

吉田中学校 海津 柚衣

分水中学校 佐藤 光希

③ 平和への誓い in 燕

④ 引率者レポート

学校教育課 指導主事 関矢 洋

学校教育課 指導係 主任 川本 朋香

平成30年度「広島平和記念式典」派遣事業出発式 平和大使決意表明

■燕中学校：岩下 未歩

私は、この広島派遣で、現地でしか知ることのできないことを学びたいと思います。また原爆についての自分なりの考えを深め、それを周りの人にしっかり伝えたいです。

■小池中学校：星野 司

私は、学校で原爆のことを勉強してきました。でも、まだよく分からない部分があるので、広島派遣を通して積極的に原爆について学んでいきたいと思います。現地に行かないと分からないことがたくさんあると思います。しっかりと目で見、肌で感じ取りたいと思います。そして、自分が感じたことを一人でも多くの人に伝えていけるように一生懸命頑張ってきます。

■燕北中学校：高橋 日和

私は、授業で学んだことをより深く学びたいです。自分がこの大役を任されたのは心配ですが、自分にしかできない方法で学び、まとめをしっかりとしたいです。

■吉田中学校：海津 柚衣

私は、この広島派遣で、写真や教科書では学べないことをしっかり学びたいです。そして、平和を維持するためにはどのようなことをすればいいのか自分なりの答えが出せるように周りから感じ取ってきます。

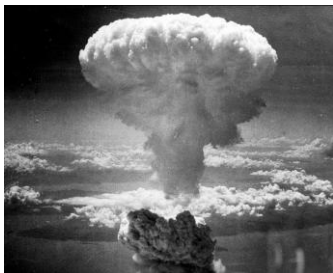
■分水中学校：佐藤 光希

私は、この広島派遣で教科書や写真では感じとれないことをたくさん感じとってきたいです。また、被爆体験講話を聞いたり、平和記念式典に参加したりして感じとったことを家族や友人に伝えたいです。そして、平和大使の一人として責任をもって行動してきたいと思います。

① 事前学習「広島原爆投下の背景」

広島に原爆が投下されることが決まるまでの過程

1945(昭和20)年春から、アメリカは原爆投下の目標都市の選定をはじめました。できるだけ原爆投下の効果が有効に働くようにと、直径4.8キロメートル以上の市街地がある都市にしようとして決めていたといいます。



終戦も近づいていたこのころ、日本の主要都市はほとんど壊滅的な被害を受けており、その中で広島はまだ決定的な被害を受けていなかったことから、原爆投下の目標都市に選ばれました。

そして、広島は地形が山に囲まれていることにより、原爆の破壊力を存分に活かせること、また広島にはたくさんの軍事施設などがありましたが、破壊されずに残っていたことも選ばれた理由の一つでもあります。

急がれた原爆投下の背景

実はこの原爆投下にあたって、アメリカはかなりその計画を急いでいたといえます。その一番の大きな理由は、日本をできる限り早く降伏させて、米軍の犠牲を最小限に留めておきかったというのが挙げられます。

また、アメリカは対戦後、世界においてソ連よりもアメリカの権力を優位に立たせたいと考えていたこと、さらにアメリカは原爆という当時最新の新兵器を使うことで、その威力を世界に知らしめたかったという理由から原爆の投下を急いでいました。また、原爆の開発にかかった膨大な費用をアメリカの国内に対して正当化したかったことも挙げられます。

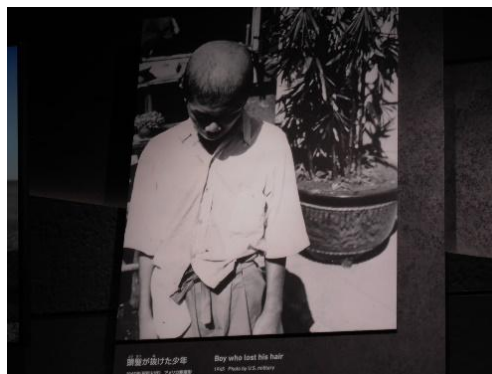


被爆者の高齢化に伴い、それを語り継ぐ人たちが次第に少なくなってきました。被爆者ではない若者も、その悲しい事実を目を向けて、後世に伝えていく勇気が必要なのかもしれません。

② 学びの記録「広島平和記念資料館」

広島派遣一日目、広島平和記念資料館を訪れ、見学しました。
資料館では、被爆者の遺品や被災状況などの写真や資料が数多く展示されているとともに、広島市の被爆前後の歩みなどについて紹介されていました。

一瞬で焼け野原になった広島。8時15分で止まった時計。穴の開いたワンピース。これらを初めて見た時は、自分がそこにいるような気分になり、とても切なく感じました。人々の被害も凄まじく、全身にやけどを負った人。熱線で、腕や顔の皮膚が垂れ下がった人。放射線の影響で、頭髮の抜け落ちた人。そんな人々の苦しみ、悲しみを、平和の世の中に暮らす私達は完全に理解することは難しいと思います。しかし、それを理解しようとする事は、とても大切なことだと私は思います。



広島に、世界で初めて原爆が落ちてから73年、破壊された街には緑が蘇り、たくさんの人々が暮らしています。平和記念資料館には悲惨な体験をしたもの達が集まっています。人の声だけでなく、そこに残るもの達の声に耳を傾けて欲しいと思います。



③ 学びの報告

私は、約一年ほど前まで、広島原爆について、「歴史上の出来事の一つ」くらいにしか思っていませんでした。きっと、今の若い人たちはそう思っている人も少なくないと思います。

私は広島で、とても有意義で貴重な三日間を過ごしました。私はその中で、戦争の悲惨さ、平和の尊さを学びました。それらを次の世代へと語り継ぐのが、私たちの使命になりました。これを怠ったら、原爆ドームに残っている意味も原爆で亡くなった方々の意味もなくなってしまうような気がします。それでは、可哀想だと思います。

私は、一年前の自分のような人たちに、今一度平和について、真剣に考えてみて欲しいと思います。そして、「今ある平和は、戦争で失われた命の代償で出来ている。」という事に気付いてほしいです。私にとっての平和は、自分の家族や友達が今までのようなありふれた生活をしていることです。使い古された言葉かもしれませんが、命や平和の尊さは、それほど重要なことなのだと、私は改めて気づかされました。

日常にあふれる小さな幸せ、ほんの些細なやさしさ、それらを愛し、悲しい歴史と共存しながら、私はこの先の人生を生き抜きたいです。また、そんな自分に影響され、心から平和を願う人が一人でも増えればいいなと思います。



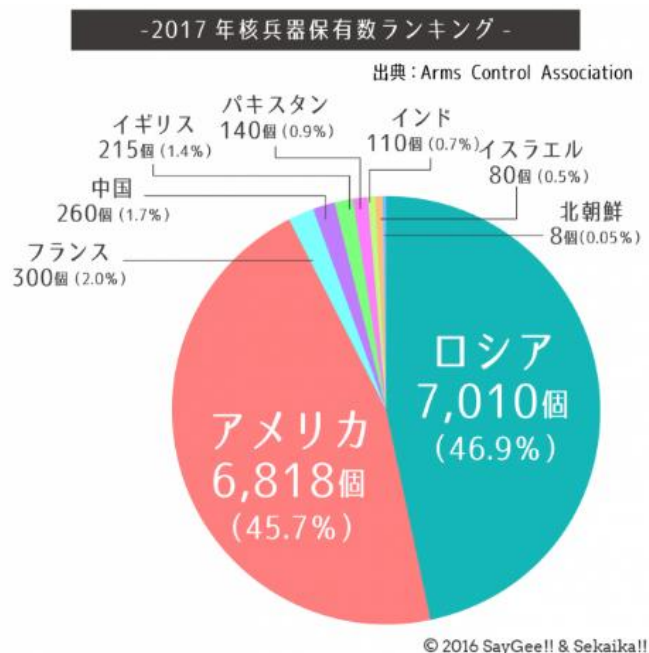
① 事前学習「現在の世界情勢」

(1) 国別核保有数 *2017年7月時点

第1位 ロシア 約7000発	第6位 パキスタン 約130~140発
第2位 アメリカ 約6800発	第7位 インド 約120~130発
第3位 フランス 約300発	第8位 イスラエル 約80発
第4位 中国 約270発	第9位 北朝鮮 約10~20発
第5位 イギリス 約215発	世界全体 約14935発

(2) 2017年の世界情勢

アメリカでトランプ大統領が就任したことは全世界に大きな影響をあたえました。特にトランプ大統領が唱えている「アメリカ第1主義」は各所で賛否を呼び、特にイスラム教国の入国禁止措置やイスラエルの首都エルサレム承認問題など世界的に大きな議論を巻き起こしました。さらにTPP 離脱やパリ協定離脱などトランプ大統領が就任してから日本はもちろんのこと世界的にも大きな影響をあたえ、トランプ大



統領の言動は常に注目を集めていました。そして北朝鮮の核開発も世界に大きな影響をあたえ特に米朝関係が悪化、一時は戦争の危機と呼ばれるまでになり、北朝鮮は挑発行為としてミサイルの発射を幾度となくしたため日本にも大きな影響がありました。

世界の国々は自分が思っている以上に核を保有していました。この先がとても不安です。

② 学びの記録「被爆体験講話」

8月5日、波田保子さんから原子爆弾が落とされたときの状況やその後の生活について話していただきました。私が思っていたよりもとても辛いお話でした。

特に印象に残ったお話は、波田さんの被爆した後のお父様のお話です。



波田さんのお父様はとても優しいお方だったそうです。ですが、たった1個の原子爆弾でガラッと変わってしまったそうです。放射線の影響で体がボロボロになってしまったそうです。仕事もできなくなり、性格も以前とは別人になり、廃人のようになってしまったそうです。「何とか生き延びたが、父の姿を見て本当に生き延びてよ

かったのか分からない」という波田さんの言葉を聞いてとても胸が痛みました。原子爆弾が投下されてから、学童疎開によって親と離れ、自由な時間もなく、辛い日々を送ったそうです。たった1つの原子爆弾でこのようになってしまったという事実を忘れてはならないと思いました。2度とこのようなことを繰り返さないためには、核兵器を世界からなくさなければならないとおもいました。まだ、世界にはたくさんの核兵器があります。1日でも早く核兵器を0にしてほしい、それが私の願いです。



③ 学びの報告

私は、この広島派遣で普段味わうことのできない貴重な時間を過ごすことができました。あの悲惨な過去について詳しく知ることができました。

この3日間で一番印象に残っている場面は平和祈念資料館で見た被爆した後の人々や衣服の写真です。熱線で皮膚が焼けてひどいやけどを負っている人々、ひどく破れている衣服が当時の状況を物語っていました。今までに味わったことのない感情に襲われました。様々な場所で原子爆弾のことについて勉強した後に、折り鶴タワーから広島景色を見ました。とても、原子爆弾が投下された場所とは思えないほどでした。

今、広島街並みを見ると、あの悲惨な事実を忘れてしまうと思います。今まで復興にたずさわってきた方々の努力の賜物です。広島カープが今波に乗っており、活気がとてもあります。ですが、そんな中でも原子爆弾のことを忘れてはいけないと思いました。忘れてしまったら、あの悲劇を繰り返してしまうからです。「平和」を守っていくためにこの事実を後世に伝えていきたいです。そして、身近な平和も大切にしていきたいです。そして、この広島派遣を支えていただいたすべての方々に感謝したいです。とてもいい経験になりました。ありがとうございました。



① 事前学習「太平洋戦争戦時下の生活」

1941年12月8日、日本軍はアメリカの軍事基地があるハワイの真珠湾を奇襲攻撃し、太平洋戦争がはじまりました。

日本は全ての国力を投入する総力戦として、太平洋戦争を戦い、戦争が長期化するにつれて、国民の負担はとて多くなっていきました。

この戦争で多くの成人男性が兵士として戦場に送られて行きました。さらには、大学生などの学生も軍隊に召集される学徒出陣も行われました。

女学生などの多くの女性は、労働力が不足したため工場で働き、子供たちは集団で農村や寺に疎開をしましたが、衛生状態などが悪く、つらい日々を過ごしました。

兵器にするための金属は鍋や釜、寺の鐘などのあらゆる金属でできたものが集められました。また、生活にたくさんの制限がつけられ、食料や衣服なども切符制になり、人々の生活はよりいっそう苦しくなっていました。



今、私たちは当たり前のように教育を受け、工場で働いたり、兵士として戦場へ行っている人はいません。ですが、昔は本当に大変な思いをして人々は過ごしていました。今、こうして生活できていることに感謝をし、日々を大切に過ごしていきたいです。

② 学びの記録「広島平和記念公園」

8月5,6日に、平和記念公園の見学をしました。原爆投下から今年で73年が経ち、戦後75年間は草木も生えないだろうとされた公園や周りの街にもまるで争いが無かったかのように緑が溢れています。

この平和記念公園は、昔、中島地区と呼ばれ、現在も残っている原爆ドームは広島県産業奨励館という名前で建ち、とても栄えた町でした。ですが、それも8月6日の午前8時15分の原子爆弾投下によって作られました。町はすべて吹き飛ばされ、跡形もなくなりました。そんな中、現在の原爆ドームは建ち続けていました。



戦後、周りの建物などが復興していく中、原爆の惨状を忘れないようにと、原爆ドームとその周りはそのまま、平和記念公園として残されました。

現在の平和記念公園は、そんな悲劇を繰り返さぬよう、慰霊碑には「安らかに眠ってください 過ちは繰返しませぬから」と書いてあります。そして、平和の灯は、世界から核兵器が無くなり、平和になるまで燃え続けるので、世界唯一の被爆国の日本が平和の大切さをこれからも伝えていかなければなりません。



今、広島はとても豊かな街になっています。ですが、あの原爆の惨状を忘れてはいけません。原爆の歴史に触れ、感じたことから平和とはどういうことなのかをしっかりと考えていかなければならないと思いました。

③ 学びの報告

私は、この広島派遣で、平和とは何だろうと深く考えられたと思います。広島に行く前の歴史の授業では「こんなことがあったんだ」くらいの表面しか分かっていませんでしたが、実際に広島へ行き、物事が深く考えられた充実した3日間でした。

平和記念公園は、原爆の被害にあった原爆ドームや、その惨劇を忘れないように建てた慰霊碑、平和の灯、平和の鐘、原爆の子の像などがあり、原爆と平和について考えさせられる体験をすることができました。平和記念資料館は思わず目を背けたくなるようなものがたくさんでしたが日本にはこれからも必要なものです。

一番心に残っているのは、被爆体験講話です。講話師の波田さんは、9歳の時に被爆をし、大変苦しい思いをしたとお聞きしました。ドーンという爆音、地響きのこと、父の変わり果てた姿など、本当は言いたくないことを涙ぐみながらも話してくれました。現在、被爆してから73年が経ち、被爆者の人数や、それを語ってくれる方は少なくなっていると思います。だからこそ、私たちがこの真実を伝えていかなければいけないと思いました。

灯籠流しでは、「世界平和 世界が笑顔で溢れますように」という願いを込め、流しました。私にとっての平和とは、世界中が自然と笑顔になれる、争いや核兵器がなく、未来について考えられることだと思います。

世界には核兵器が約1万4000個もあり、その危険性は核兵器の恐ろしさを一番知っている、唯一の被爆国である日本が一番世界に伝えられると思います。いつか、世界から核兵器が無くなり、広島にある平和の灯の火が消えることを願っています。被爆していてもしていなくても核は持つてはいけないものだというのを改めて考えることができた3日間でした。



① 事前学習「戦後の復興」

1 広島の早い立ち上がり

広島は被爆により、市街地を失い、復興の中心になるべきの市役所も焼けてしまいました。また、多くの死傷者が出ました。

しかし、原爆投下から3日後には市内電車が動き始め、水道や電気も次第に復旧していきました。

2 「広島平和記念都市建設法」

1946年5月、多くの関係者の努力によって、「広島平和記念都市建設法」が国会で可決されました。

そして、原爆投下のちょうど4年後の1949年8月6日に公布、施行されました。

この法律ができたことにより、国をあげて広島市を平和のシンボルにして建設することになりました。



原爆投下から3日後には市内電車が動き始めたことには驚きました。具体的な被害は分かりませんが、レールや電車を修復するのにたくさんの人が協力して復興したんだな、と思いました。

また、8月6日に起きた惨劇を伝え、伝承するために多くの人たちの努力があって今の広島平和記念式典があるんだなと思いました。

唯一の被爆国、日本だからこそ知る核の恐ろしさを世界に発信することが平和に近づくためにできることだと感じました。

② 学びの記録「広島平和記念式典」

8月6日、今年も広島平和記念式典が行われました。

この式典では、広島市長からの平和宣言や、子供代表の平和の誓いがありました。

また、多くの外国人が参列していました。

私は子供代表の平和の誓いの言葉が印象深かったです。

それは

「平和とは、自然に笑顔になれること」

「平和とは、人も自分も幸せであること」

「平和とは、夢や希望をもてる未来があること」
です。

平和はごくありふれたものではなく、自分たちで維持していかななくてはならないものだと思います。



そのために、原爆の恐ろしさを理解し、それが広島に投下された事実を伝えていきたいです。



今年で原爆投下から73年経ちます。

時代の流れとともに被爆体験者は少なくなっています。

平和の尊さ、命の重さをこの式典から感じることができました。

この式典を通して、8月6日の広島での出来事が次の世代、また次の世代へと語り継がれてほしいです。

③ 学びの報告

私はこの広島派遣で、実際に現地に行くことで教科書や写真からでは伝わらない体験ができました。

命の重さ、平和の尊さを改めて考え、その思いがより深まりました。

この3日間を通して原爆のことについてたくさんのことを学びました。

原爆が投下されたのは、戦争を早く終結させるため、原爆の威力を試すため、そして、アメリカは原爆という新兵器の開発を正当化したかったこと。



肌が一瞬で焼け落ち、ただれてしまう
1000℃以上の熱線が人体を通ったこと。

私達が住んでいる新潟が原爆候補にあったこと。

いかに戦争、原爆が恐ろしいか、これらを知るまで分かりませんでした。

ビルが立ち並びたくさんの人、車などが通っていてここに原爆が投下されたとは思えませんでした。

私は「どうすれば平和を維持できるか」を意識して3日間を過ごしていました。広島から帰ってきて自分なりに考えてみました。

平和はいろんな人が共存する世界だと思います。

支え合ったり、高め合ったりして人が笑顔になるのではないのでしょうか。

人によって平和の意味は異なるかも知れませんが私は今平和だと思います。

しかしそれは、平和を守ろうとしてきたからであり、守ろうとしなければ平和にはならないと思いました。

そのために、お互いが思いやり、助け合えば平和が維持できると思います。



① 事前学習「原爆の被害・惨状」

＜原爆投下直後の惨状＞

昭和20年8月6日午前8時15分にアメリカ軍によって原爆が投下されました。平坦なデルタ地帯（三角州）の中央部に投下されたため、爆風や熱線がほとんど遮られずに被害は大きくなりました。爆風が起こった場所から半径約20メートルの範囲は木造の住宅はほぼ全壊・全焼し、崩れなかった丈夫な建物も窓は吹き飛ばされ、内部は焼失しました。死者は14万人ほどといわれています。また爆発の起こった20～30分後には「黒い雨」が降り始めました。気温が低下し、爆発時の泥やすす、ほこりを含んだ黒い大粒の雨が降りました。その雨は放射性降下物の1種であり、放射線の被害を広げました。



＜後遺症＞

放射線を大量に受けたことにより、がんになる人が出ました。また白血病にかかりやすくなるなど、被害を受けた人々の体に悪影響を与えました。

原爆による被害は投下時の熱線による被害と放射線による被害があることを知りました。当時の人々に苦しみを与えた原子爆弾の脅威は今後も忘れることなく語り継いでいくべきものだと思います。

② 学びの記録「ヒロシマの心を世界に 2018」

1945 年 8 月 6 日、広島に原子爆弾が落とされたことで 14 万人の死者が出ました。一つの核によって多くの犠牲者が出ました。

「おさん幻想二〇一八」は広島市内にある舟入高等学校の演劇部によって行われた劇です。その劇に出てくるおさんはイタズラ好きの狐でした。しかし広島に危険が迫っていることを知ってみんなを助けようとししました。それでもみんな日本兵のことばに騙されて逃げようとしません。「日本は必ず勝つから、大丈夫だ。」と言われ続けたのです。おさんは自分も人を騙すが人間はもっと人を騙すのがうまいと言いました。その日本兵は日本が必ず勝つと本当に信じていて、そのように発言したのかもしれませんが。それでも逃げずにいたせいで原爆の被害にあったのです。多くの人々を傷つけた原爆の悲惨さを感じる劇でした。



このように人間同士でだましあって互いに消えない傷を残すそれがどんなに残酷なことか考えてみてください。核の恐ろしさに人々がとらわれ、支配された未来が私たちに必要なのでしょうか。この世の中から核がなくなり平和が訪れることを願います。

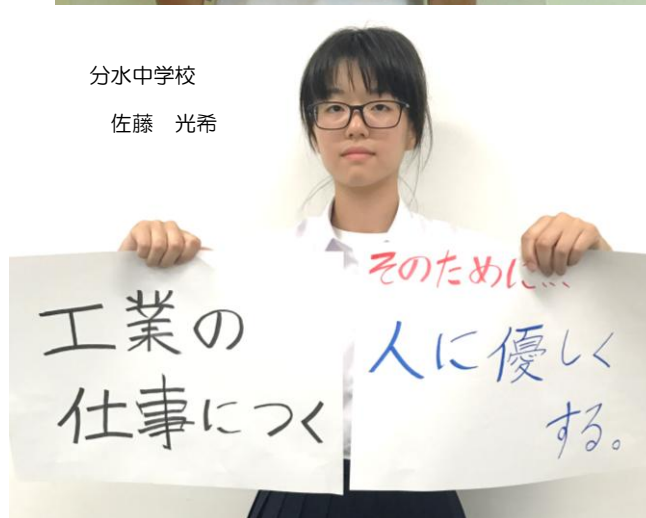
③ 学びの報告

広島で3日間たくさんの体験をして充実した時間を過ごすことが出来ました。平和記念式典で広島県知事の挨拶がありましたが、その時のお話が印象に残っています。とても仲の悪いお隣さん同志がいました。片方の家が兵器を用意したら、もう片方の家もそれに対抗するために兵器を用意しました。だから仲が悪くてもお互いに手は出さないんだ、というお話です。このように核を核で抑止しようとしていたら、いつまでたってもこの世から核兵器がなくならないと思います。今一度その悪循環ともいえる状況を見直して、手を取り合い兵器をなくせたら平和な世界が取り戻せるのではないのでしょうか。

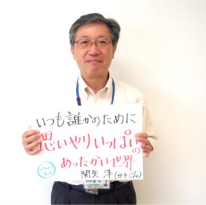
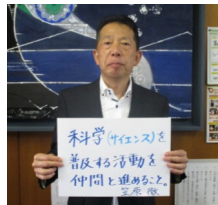
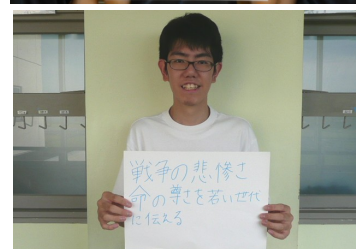
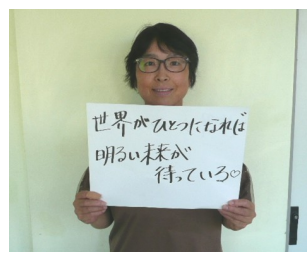
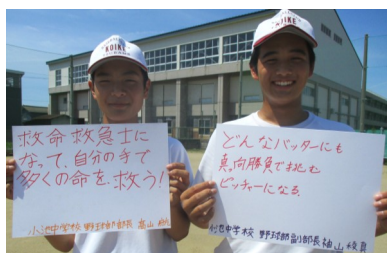
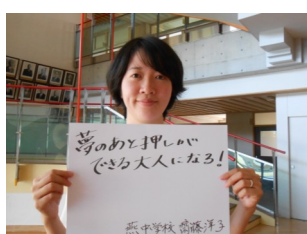
また、原子爆弾の投下により放射線が広がりガンが発症しやすくなるなどの後遺症が残った事も分かりました。それと同じような被害が原子力発電所の爆発によっても起こると知り、身近な所にある恐ろしさに気づきました。またケロイドなど火傷による被害も大きかったと聞き、人々が苦痛をうったえる姿を想像したら怖くなりました。このような悲劇を未来に起こしてはならない、もう二度と繰り返してはいけなと強く感じました。過去の悲劇を繰り返さないようにすることの大切さを伝えていきたいです。



平和への誓い in 燕



夢をもてるのは 明るい未来が待っているから
私たちはこれからも 伝え続けます
平和と命の尊さを



明るい未来のために

(引率者) 学校教育課 関矢 洋

目の見えなくなった母親が
死んでいる子どもをだいて
見えない目に
一ぱい涙をためて泣いていた
おさないころ
母に手をひかれてみたこの光景が
あの時のおそろしさとともに
頭からはなれない

(出典:「やけあとで」水川 スミエ、『原子雲の下より』青木書店)



国立広島原爆死没者追悼平和祈念館の館内に、原爆詩を朗読する5人の平和大使の声が静かに響き渡りました。左掲の詩は、5人の最後に朗読した燕中の岩下さんが選んだ原爆詩です。静まり返る会場で、平和大使の朗読に聞き入るたくさんの

方々。中には、ハンカチを臉にあてておられる方の姿もありました。

5人の中で最初に朗読したのは、分水中の佐藤さんでした。「水、水…」と言って亡くなった弟に水を汲んでやれなかったことを悔いる兄が書いた詩(後掲)でした。吉田中の海津さんは、バレエの先生の体にピカドンのやけどを見つけた女の子の気持ちが綴られた詩を選びました。燕北中の高橋さんは、泣きながら我が子の無事を祈りおむすびをにぎる母のことを書いた女の子の詩を選びました。小池中の星野さんは、原爆で行方が分からなくなったお兄ちゃんを泣きながら探す母のことを書いた男の子の詩を選びました。一人一人どんな気持ちでこれらの詩を選んだのだろうと想像しながら、私もまた彼らの朗読に聞き入りました。朗読詩に描かれた光景が浮かんできて、涙をこらえるのに必死だったことを覚えています。

「73年前の8月6日も今日と同じ月曜日で、とても暑い日でした…」

松井広島市長は、平和宣言をこう切り出しました。あの日と同じ「暑い夏の日」、あの日と同じ「月曜日」。今日と同じこの時刻に、人類史上かつてない惨状がこの街に起きたのだと考えると、遠い所の出来事ではなく、平和の尊さ、ありがたさを感じずにはいられませんでした。今日と同じ青い空から落ちてきた一発の爆弾により、何十万人という人々が、命を奪われいまだに苦しみを被っているのだという事実。被爆者として私たちに体験を語ってくださった波田さんのお話も重なって、余計に「今日と同じ」という言葉が心に刺さりました。これが、広島に立ち、広島に流れる空気に触れることなのだと実感しました。



訪れた広島は、街中が「平和への願い」で溢れていました。ものすごい暑さの中ではありませんでしたが、5人の平和大使の皆さんは弱音一つ吐くこともなく、限られた時間の中精力的に活動し、広島の思い、人々のメッセージを懸命に心に刻もうとしてくれました。夜のミーティングでは、広島の街全体に流れる「平和への願い」に触れて感じたこととして、人（国）と人（国）とが争い合うと、日常の当たり前が奪われてしまうこと、もっと真剣に平和について考えなければいけないことなどが、自然と子どもたちから話題になりました。なぜこれだけのメッセージが出されているのに、世界はまだ核爆弾を無くすことができないのだろうと疑問をぶつけてくる子もいました。

帰りの新幹線の中で5人は話し合い、報告会では「夢」を一つのテーマにしようということになりました。夢をもてるのは、明るい未来があるからであり、明るい未来は、平和を守る努力によってつくられるものだからと言うのです。夢のために平和を守る努力が必要だと訴えたいということが、報告会開催の目的となりました。

報告会では、一人一人原爆詩の朗読も交えて、自分が感じ考えたことを伝えたいということになりました。原爆詩は、広島で彼らが大きく心揺さぶられたことの象徴的なものだったのだろうと思います。それを再び朗読することで、自分が感じた広島の思いを伝えようと考えたのでしょう。当日の朗読に、現地での朗読以上の迫力を感じたのは、言うまでもありません。

心動かされる機会というのは、そう多くはありません。このたびの広島派遣は、そうした滅多にない機会の一つだったと思います。この体験は、きっとこれからの自分をつくる中で活かされ、周りの人々を巻き込んだ明るい未来をつくるための言動へとつながるだろうと思っています。

5人の平和大使の皆さんのこれからの成長と活躍を心から祈念しています。

一緒に過ごせた時間は、私にとってかけがえのない宝物となりました。

いたといたの中に
はさまっている弟、
うなっている。
弟は、僕に
水、水といった。
ぼくは、くずれている家の中に、
はいるのは、いやといった。
弟は、
だまって
そのまま死んでいった。
あの時
僕は
水をくんでやればよかった。

（出典：「弟」栗栖英雄、
『原子雲の下より』青木書店）



過去を学び、伝えることは未来を守ること

(引率者) 学校教育課 川本 朋香

肌を刺すような日差しと例年以上に灼熱の暑さの広島駅に降り立った目の前に、新潟県では見ることが出来ない路面電車が走っていました。

「あれは何？道路に線路があるの？その上を車が走って良いの？」
ある平和大使の第一声でした。



1945年8月6日、朝8時15分、広島は街は一瞬で焼け野原となり多くの命が奪われました。しかし、原爆投下のわずか3日後に路面電車は運行を一部再開したそうです。

悲しみに暮れる広島の街を路面電車が走る姿は、市民に勇気と希望を与えてくれたと言います。



平和記念公園には青々と樹木が茂り、癒しの空間のように感じました。まさに復興と平和のシンボルといった印象でした。

73年もの間、苦しみ、悲しみ、それでも希望を捨てず努力し続けたたくさんの人の祈りと願いそのものだと感じました。そのたくさんの人の努力と私たちがつないでいかななくてはなりません。



今年、平和大使となった5人の生徒たちは、教科書で学習した戦争や原爆のことを、広島の地に立ち、自身の目で見て、直接現地の方の話を聞いたことで、頭の中の理解だけではなく、平和の尊さと戦争の悲惨さをその心に強く感じてきました。

普段は中学生らしいかわいらしい笑顔を見せている5人ですが、平和記念資料館での姿や公園案内ボランティアの方の話を聞いている表情は真剣であり、信じられないものを見たかのように目を大きく開き、悲惨な過去をしっかりと受けとめようとしているようでした。

「とうろう流しはどんな意味があるの？」「原爆ドームは被爆したときのままの形なの？」「なぜ被爆者は差別されるの？」まっすぐな素直な気持ちで私に疑問をぶつけてくれる平和大使たち。戦争や平和について積極的に学ぼうとする意欲的な姿勢が、誇らしくもあり頼もしくさえ感じました。

被爆体験者の波田保子さんのお話で、私がとても印象的だったことがあります。「父が生きていてくれて良かったと思えたのはだいぶ後のこと。戦争は父を殺しはしなかったけれど、心も体も優しさも奪った。魔人のようになった父と一緒に育った私は夢をもてなかった。」というお話です。

73年経った今もなお苦しみ、辛い思いをしながら生きている方がたくさんいることをあらためて思い知りました。また、子どもたちが夢や希望をもてない世の中は平和とは言えないのだと強く感じました。

波田さんは、おそらく思い出したくもない、口にもしたくない辛い過去を、私たちに語ってくれました。途中言葉に詰まる場面もありました。そんな辛い思いをしてまで、語り部を続けている理由。それは二度と同じ惨劇を繰り返してほしくないという強い思いからなのだと思います。



これからやってくる未来は、今この瞬間の延長線上にあることをしっかりと理解し、平穏な生活は永遠のものではなく、自分たちの手で守らなければいけないことを私たちは伝え続けていかなければならないのです。

5人の平和大使たちは、全身で感じたことや受け止めたことを、学校や地域で伝え続けてくれることでしょう。そして夢と希望を抱いて、平和な世界を築く若者へと成長していくことでしょう。

派遣事業の概要

派遣事業の概要は次のとおり。目的を理解し、有意義な学習活動となるよう留意する。

(1) 目的

非核平和宣言都市推進事業及び平和学習活動実施の一環として、広島平和記念式典をはじめとするさまざまな催しに次代を担う中学生を派遣することにより、国際的な視点をもって命の尊厳や平和の尊さについて理解できる生徒を育成すること。

(2) 主な活動内容

- ①広島市原爆死没者慰霊式並びに平和祈念式への参列
- ②広島平和記念資料館、原爆ドーム、原爆死没者慰霊碑等の見学
- ③原爆の子の像に各校で作成した千羽鶴の奉納
- ④被爆体験講話の受講
- ⑤とうろう流しへの参加
- ⑥全校生徒への報告（2学期に、各学校で報告会などを実施）
- ⑦報告書の提出

広島派遣時

派遣後

1. 派遣事業参加中の役割分担

自主的な学習活動を進めるため、役割分担をする。

役割分担の内容		氏 名 (中 学)
(1)	ミーティング・被爆体験講話司会	佐藤 光希 (分水中)
(2)	記録（見学・訪問先等）	海津 柚衣 (吉田中)
		高橋 日和 (燕北中)
(3)	お礼のことば	星野 司 (小池中)
(4)	引率者との連絡調整	岩下 未歩 (燕 中)

2. 学習の過程及び分担

より有意義な体験にし、各学校の全校生徒へより効果的に伝えるため、「事前の学習」、「学びの記録」、「学びの報告」という3ステップで学習活動を進める。

(1) 事前の学習 事前に以下のことについて学習し、より充実した体験とする。

- ①日程及び資料の確認 (担当： 全 員)
- ②被爆体験者への質問 (担当： 全 員)
- ③太平洋戦争戦時下の生活 (担当： 高橋 日和)
- ④広島原爆投下の背景 (担当： 岩下 未歩)
- ⑤原爆の被害・惨状 (担当： 佐藤 光希)
- ⑥戦後の復興 (担当： 海津 柚衣)
- ⑦現在の世界情勢 (担当： 星野 司)

(2) 学びの記録 以下の項目について担当がそれぞれレポートとしてまとめる。

広島での学び	① 広島平和記念公園	(担当： 高橋 日和)
	② 広島平和記念資料館	(担当： 岩下 未歩)
	③ ヒロシマの心を世界に 2018	(担当： 佐藤 光希)
	④ 被爆体験講話	(担当： 星野 司)
	⑤ 広島平和記念式典	(担当： 海津 柚衣)

(3) 学びの報告 (まとめ)

参加前の学習や実際に3日間の研修に参加して得たものや感じたこと、またこれらの経験を受けて、全校生徒や周りの人に伝えたいことをまとめる。

3. 広島平和記念式典派遣事業報告会

日 時：8月25日(土) 午前10時から11時

場 所：燕市役所 つばめホール

広島平和記念式典派遣事業の様子



各校にて千羽鶴製作



出発式にて



広島平和記念資料館にて



千羽鶴奉納



平和記念式典会場にて



平和記念公園散策



とうろうに祈りを込めて



被爆体験記朗読会



地元高校生からインタビュー



報告会の様子
(約 80 名の市民の方々が来ていただきました)



前年度の報告会や原爆パネル展にて市民の方から作成いただいた折り鶴も原爆の子の像へ奉納させていただきました。

被爆アオギリ二世

被爆アオギリ二世の親木のアオギリは、爆心地から北東 1.3 kmにある中国郵政局の中庭で被爆しました。爆心地側の幹半分が熱線と爆風により焼けてえぐられましたが、焦土の中で青々と芽を吹き返し、被爆者に生きる希望を与えました。その後、このアオギリは 1973(昭和 48)年に平和記念公園内に移植され、今でも樹皮が傷跡を包むようにして成長を続けています。被爆アオギリ二世は、このアオギリの種から育てられたもので、「平和を愛する心」、「命あるものを大切にする心」を育み、平和の尊さを伝えるとともに、過ちを再び繰り返さないよう、被爆の実相を後世に伝えます。

燕 市 平成 30 年 4 月 植樹



燕市役所正面出入口側 思いやり駐車場脇



広島平和記念式典派遣事業 平和大使活動報告書

派遣期間：平成 30 年 8 月 5 日（日）～7 日（火）

燕市教育委員会学校教育課